



年 組 名前

道新でワークシート

洋上風力初の商業運転 秋田 20基稼働の大規模発電

丸紅や東北電力などが出資する「秋田洋上風力発電」

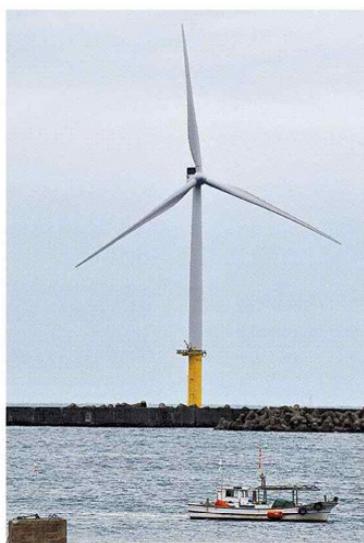
は22日、秋田県能代市の能代港に建設した洋上風力発電所が、大規模施設としては日本初となる商業運転を始めたと発表した。沖合1〜3キロに設置した風車20基が稼働した。政府は洋上風力を再生可能エネルギー普及の「切り札」と位置付け、導入拡大を進める方針を示している。

秋田洋上風力発電の岡垣啓司社長は同日、能代港で取材に応じ「ここでしっかり成功事例を示すことが、今後の拡大の大きな弾みになる。日本が目指すカーボンニュートラルの実現に大

きく前進したと考えている」と述べた。

同社によると、風車の柱は海面から約90メートル、羽根は1枚が約57メートル。近く運転開始を見込む秋田港（秋田市）の13基も合わせると、発電容量は計約14万キロワットとなり一般家庭13万世帯分に相当。発電した電力は東北電力ネットワークに売却する。

洋上風力は陸上より風が安定して吹き、海に囲まれた日本は適地が多いとされる。政府は2040年までに洋上風力の発電能力を最大4500万キロワット（原発約45基に相当）へ引き上げる目標を掲げている。



商業運転を始めた洋上風力発電所の風車＝22日、秋田県能代市の能代港

2022年12月23（金）朝刊 全道版 11ページ（記事は再編集しています）

①政府が洋上風力を「再生可能エネルギー普及の切り札」と考えているのはなぜですか。「地形」の視点から記事を参考に書いてみましょう。

②日本が目指している「カーボンニュートラル」とは何ですか、タブレットなどの端末を使って意味を調べて書いてみましょう。（出典・引用元を明らかにしましょう）